

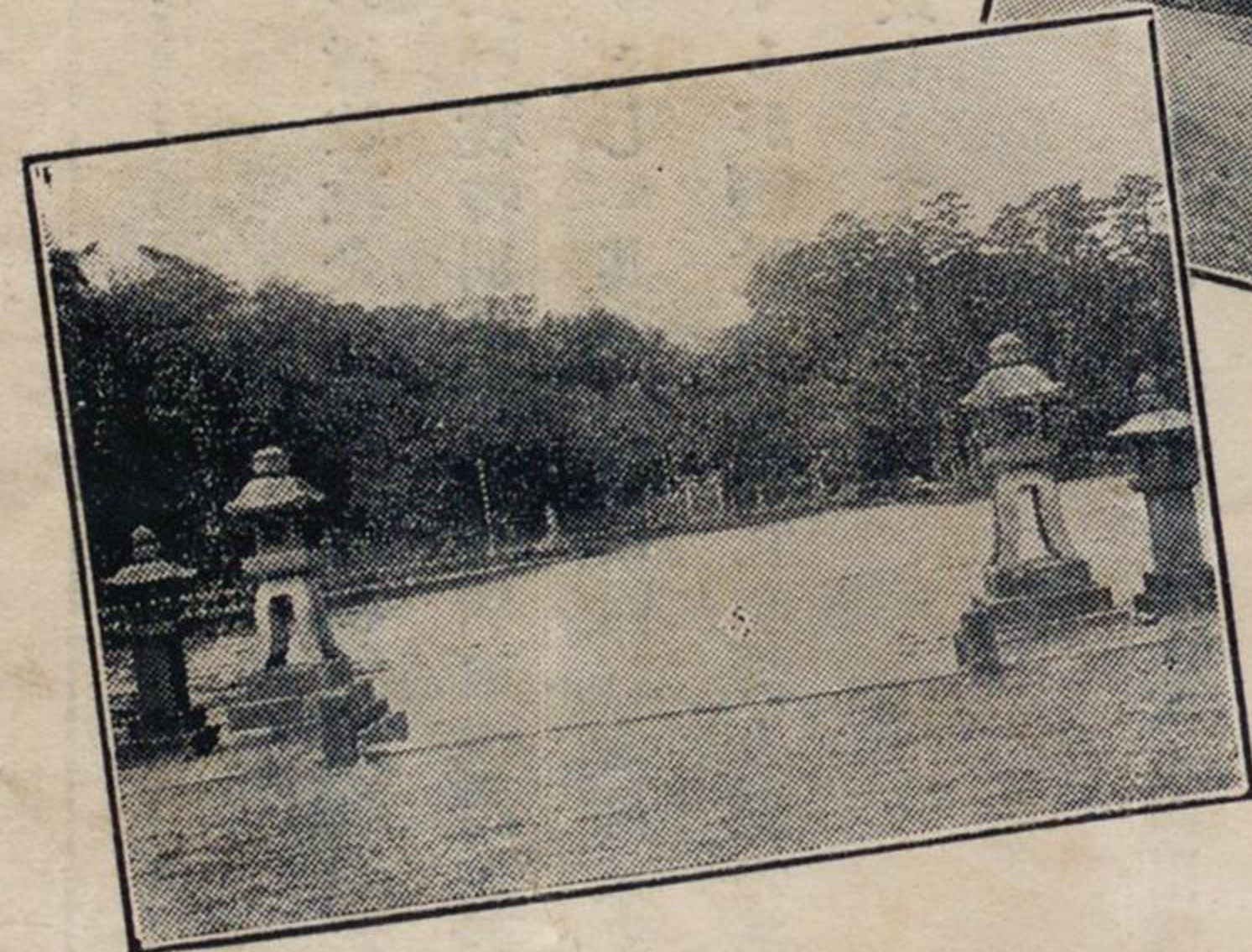
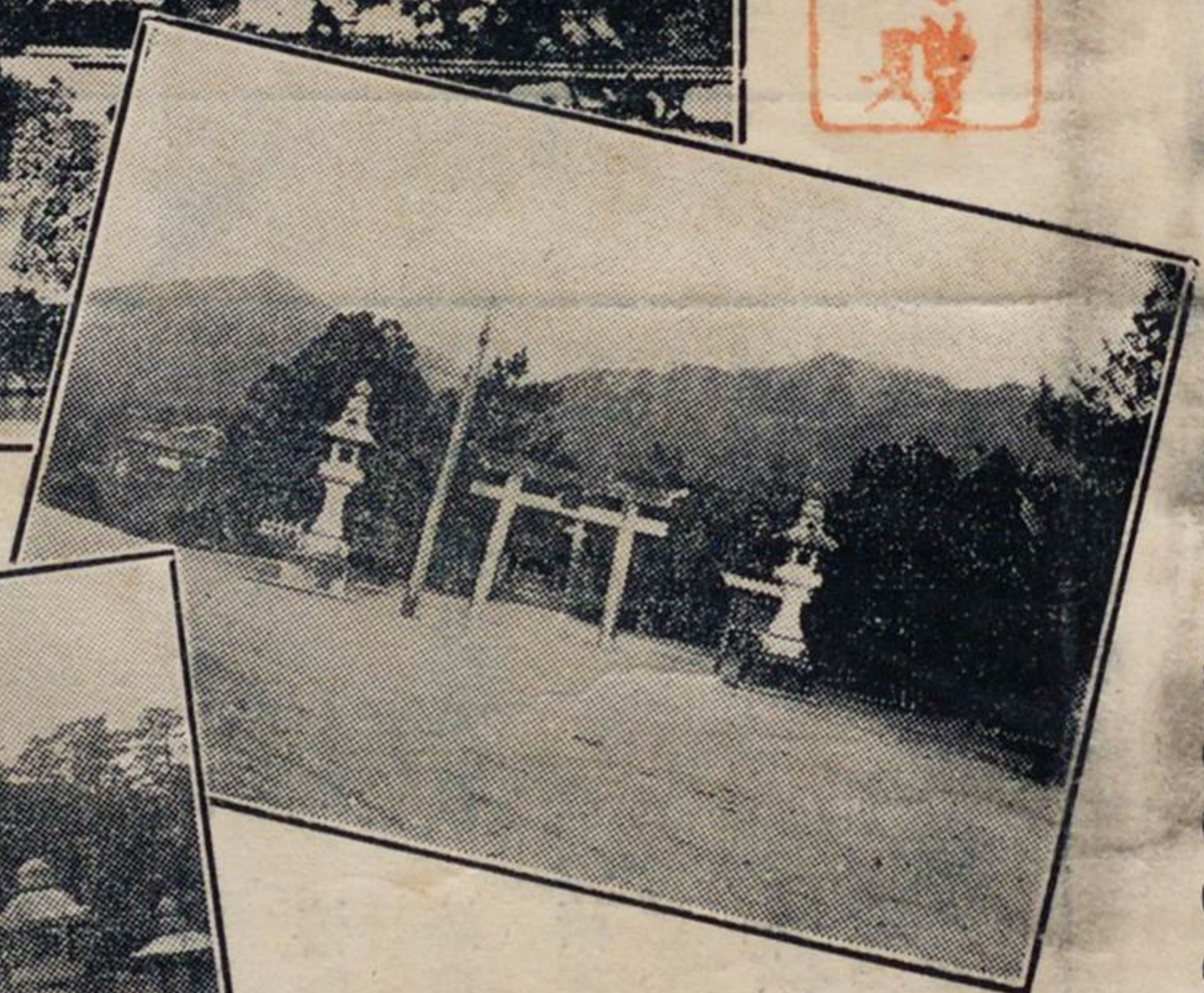
報月萩

號壹第

萩

町

寄贈



號月四年三和昭

行發町萩縣口山

目次	
發刊の辭	一
庶般行政	三
旗表	四
學事	九
産業	一四
農事統計	一九
財政及經濟	二三
軍事	二六
土木	二七
衛生	二九
人事	元
慈惠救濟	三
雜事	三

發刊の辭

明るき政治へ進めといふことは、近代人士の唱ふる所であります。殊に今日の自治行政は、之を理解する人の、一人にても多き程制度の圓熟を期し得らるゝものの如く思はれます。萩町は戸口數より見ても、又歴史上の地位からしても、縣下首位の自治團體であることは一般に肯定されて居る譯であり、加ふるに近時交通の便、頓に開け、且つ滿鮮航路の要衝に當つて居る關係上、開港場として海陸兩方面より、將に活躍を始めむとする域に迄達して來たことは三萬町民諸子と共に、萩の前途を祝福せざるを得ぬ次第であります。是等の外形が整備するに連れ大萩の内容を充實すべき責任者は誰あらん、萩町三萬の同胞に外ならぬのでありますから、恰も昭和戊辰の干支を迎ふる時に當り、今より六十年前の、萩の歴史を回顧せられ、一身を挺して其の局に膺らるゝことを希望して已まぬのであります。

夫れに付ても、皆さんの御世話を致す萩町に於て、日々取扱ふて居る仕事の一斑を御承知になることが何かに付け必要であると思ひますから、茲に町會の

本月の徴收税金は縣稅地租附加稅町稅地租附加稅及縣稅特別地稅町特別地稅附加稅の四種でありまして其の納期は何れも月末となつてゐますが納稅者の便宜を計り左の通出張徴收を致します

記

四月二十七日 木間小學校、山田信用組合

椿信用組合

四月廿八日 椿東記念館

積善信用組合雁島支部

萩町稅務課

協賛を経、毎月一回本月報を發行して、町の現勢並庶般事象の概況を明るみへ出し、一人でも多く之を理解して戴き倚りて以て萩町勢の進運に寄與し徐ろに内面的大萩の實現に資せむとする次第であります。大方の各位之を諒せられむことを。

昭和三年四月十日

萩町長 林 勇 輔

庶般行政

萩町會

三月廿日昭和三年第四回萩町會を召集開會し大正十五年度昭和元年度萩町歳入歳出豫算認定の件外九件を議了即日閉會せり

萩町 辭令

下水調査囑託 森 重 清 三
三月三十一日附囑託ヲ解キ土木工事監督ヲ命ス
河 村 猛
三月三十一日附萩町立工業傳習所教師ニ任ス
建築工事監督 大 崎 箕 市
三月三十一日附新川改修工事監督ヲ命ス
松 野 勝
三月三十一日附萩町書記ニ任シ萩町魚市場玉江出張所勤務ヲ命ス
堀内病院看護婦 中村 ハ ッ オ
三月三十一日附萩町立小學校看護婦ヲ命シ明倫尋

常高等小學校勤務ヲ命ス

區長及區長代理者異動

本年一月以降區長及區長代理者中退職及就職したる者左の如し

職 名	退 職	職 名
東濱崎第一區長	水 岡 又 吉	
越ヶ濱第二區長	河 村 爲 吉	
越ヶ濱第一區長	藤 田 松 藏	
越ヶ濱第一區長代理者	大 田 榮 作	
御許町第一區長代理者	藤 田 龍 寶	
職 名	就 職	氏 名
東濱崎第一區長	進 藤 福 松	
越ヶ濱第二區長	廣 田 甚 吉	
東濱崎第一區長代理者	刀 禰 德 介	
越ヶ濱第一區長	友 永 十 郎	
越ヶ濱第一區長代理者	松 田 龜 松	
御許町第一區長代理者	梶 本 滿	

衆議院議員選舉調の一斑

昭和二年二月二十日 衆議院議員選舉投票成績

名簿確定數	裁投票區	椿東同上	椿同上	山田同上	合	計
當日有權者數	三、〇二一	二、〇〇九	五七八	九六二	六、五七〇	
投票數	二、九八〇	一、九九五	五七四	九五五	六、五〇四	
特別投票數	二、六三四	一、四七六	四九〇	六三四	五、二三四	
棄權者數	四	一一一	一	一	一一五	
棄權率 %	三四六	五一九	八四	三二一	一二七〇	
備考	一一、六	二六、五	一四、六	三三、六	一九、三	

山田投票區棄權者の主なるものは當時遠洋出漁中の者なり

發展ニ努メ其ノ施設宜シキヲ得成績ノ見ルヘキモノアリ仍テ茲ニ金壹封ヲ授與シ其ノ效績ヲ表彰ス

昭和三年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

旌表

表彰狀並事蹟概要

表彰狀

沖原區 自 彊 會

會員克ク戊申詔書ノ聖旨ヲ奉體シ和衷協同區内ノ

事蹟概要

- 一、會ノ名稱 沖原區自彊會
- 二、區 域 萩町大字椿字沖原及字木部部落ニ住居スル戸主ヲ以テ組織ス
- 三、設立年月 明治四十二年十月一日

四、目的 戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉體シ勤儉力行共存共榮ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的ト爲ス

五、施設事業

- 1、毎年一月十一日定時總會ヲ開催
- 2、地鎮祭(二月十一日)及祈年祭(插秧終了後)執行
- 3、貯金ノ勵行
- 4、勞働賃銀ノ協定(一月總會)
- 5、道路ノ補理掃除(年二回)及用惡水路ノ浚渫
- 6、入退營者ノ送迎及入營者留守宅ノ農業援助
- 7、會員及家族ニ不幸アリタルトキハ葬儀當日白張提灯壹對並生花壹對ヲ供ヘ會員舉テ會葬ヲ爲ス
- 8、會員中災厄ニ罹リタル者アルトキハ會員全部ノ勞働並物質的援助
- 9、爭議ノ調停
- 10、報德會ノ母體トナリ物質的後援
- 11、精神講話及農談會ノ開催
- 12、其ノ他公益ニ關スル事業

六、基金及共有金ノ造成

會員各自ヨリ毎月零碎ナル醵金ヲ爲シ本會ノ事業費ニ充ツルコト、ナレリ昭和二年末ニ於ケル基金及共有金ノ現在額左ノ如シ

- 1、基金七拾壹圓
- 2、共有金五百四拾八圓
- 七、成績顯著ト認ムル事項

本會區域ノ部落ハ大字椿ノ各部落中其ノ資産及生活狀態ニ於テ菲薄ノ評ナキニアラサリシモ本會設立以來會員亦時代ノ進運ニ自覺シ克ク戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉體シテ和衷協同以テ家事ニ精勵シ傍ヲ副業ノ發達ヲ圖リ貯金ノ増殖ニ努メ婦人ノ活動ト相待テ漸次共存共榮ノ實ヲ舉クルニ至レリ現ニ會員五拾餘名ヲ有シ一人當個人ノ貯金額約千貳百圓ヲ算シ山林田畑ヲ購入シタルモノ其ノ額殆ント五万圓ヲ超過シ家屋ノ新築又ハ改築ヲ爲シタル者亦尠カラス殊ニ近時小學校ト聯繫シテ兒童ノ教養及社會教化ニ資ス所アラントス

八、最近ニ於ケル副業産額ノ主ナルモノ左ノ如シ

イ、蠶繭 四千五百圓

ロ、紫雲英及午夢種子 五千圓乃至六千圓
ハ、澤庵用大根 千五百圓乃至貳千圓
ニ、南瓜 千五百圓乃至貳千圓
ホ、樹苗 千圓乃至千五百圓

昭和三年二月十一日

表 彰 狀
萩町長 林 勇 輔 誌

土原第三區長 江山吉五郎
多年區長ノ職ニ在リ克ク其ノ任ヲ完ウシ勞効尠カ
テス仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和三年二月十一日

表 彰 狀
萩町長從五位勳六等 林 勇 輔 誌

事蹟概要
萩町大字土原第三區長 江山吉五郎
元治元年五月二十五日生
資性温厚篤實ニシテ自ラ持スルニ恭儉人ニ接スル
ニ懇切ナリ明治三十一年十月選ハレテ區長ノ職ニ
就キ同三十四年任期ヲ了ヘ超エテ同四十一年五月
區長ノ職ニ在リシ父ノ死亡後再ヒ衆望ヲ荷ヒテ其
ノ跡ヲ襲ヒ爾來今日ニ至ル迄區長ノ任期ヲ重ヌル

コト七回其勤績年數前後ヲ通シ實ニ貳拾四年ノ久
シキニ及ヒ本町區長中稀ニ見ル所タリ其ノ間常ニ
區長代理者ト相協力シテ指導宜シキヲ得區内ニ周
知スヘキ事件ノ措置迅速且ツ確實ヲ期シ殊ニ滯納
ノ矯正ニ産業ノ獎勵ニ最モ力ヲ致シ終始一貫能ク
其ノ職務ヲ盡セル者ナリ

昭和三年二月十一日

表 彰 狀
萩町長 林 勇 輔 誌

元萩町明倫尋常高等小學校訓導
多年小學校教育ノ任ニ膺リ其ノ效績尠カラス仍テ
茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和三年二月十一日

表 彰 狀
萩町長從五位勳六等 林 勇 輔 誌

事蹟概要
元萩町明倫尋常高等小學校訓導
明治二年九月四日生
明治二十一年七月山口縣女子師範學校ヲ卒業シ豐

浦郡内日小學校訓導ト爲リ一時職ヲ退クコトアリ
シモ同三十年六月更ニ肩書ノ小學校ニ就職シ以來
勤績二十九年十月算シ終始熱心職務ニ勵精シ
嘗テ倦怠ノ色ナキノミナラス事故ニ依リ缺勤スル
等ノ通弊無シ資性温良貞淑ニシテ頭腦明晰且身體
強健能ク歷代校長ノ指導方針ヲ遵守シ而モ不斷研
鑽考究ニ努メテ修養ヲ怠ラス又多數女教員ノ上席
先輩トシテ常ニ同僚ヲ誘掖善導シ擔任學級ノ成績
亦良好ナルカ故ニ一般父兄ノ信賴厚カリシカ客年
三月老齡ノ故ヲ以テ自ラ勇退シ後進ニ席ヲ讓ルニ
至レリ其ノ職ニ在ルコト前後ヲ通シテ實ニ三十一
年十ヶ月ノ久シキニ及ヒ女性教育家トシテ稀ニ見
ル永年勤績者タルノミナラス其ノ間孜々トシテ恪
勤セル效績沒スヘカラサルモノアリ斯界ノ模範ト
爲スニ足ル

昭和三年二月十一日

表 彰 狀
萩町長 林 勇 輔 誌

財團法人萩婦人會員
小川 ミネ

多年會ノ要職ニ在リテ力ヲ女學校ノ經營ニ致シ子
女ノ教養ニ貢獻スル所尠カラス仍テ茲ニ銀盃壹個
ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和三年二月十一日

表 彰 狀
萩町長從五位勳六等 林 勇 輔 誌

事蹟概要
財團法人萩婦人會員
小川 ミネ
明治三十九年五月始メテ萩婦人會員トナリ同四十
一年幹事ニ舉ケラレ大正十三年本會ノ組織ヲ財團
法人ニ革ムルヤ評議員兼常務理事ニ推薦セラレ今
日ニ至ル其ノ要職ニ在ルコト二十ヶ年此ノ間専ラ
會務ヲ整齊シ校運ノ進展ニ力ヲ致セリ大正元年本
會カ萩修善女學校ヲ經營セントスルヤ費金募集ノ
任ニ當リ奔走大ニ努メ遂ニ之カ實現ヲ見ルニ至ラ
シメタリ其ノ後更ニ東都ノ有志先輩ヲ説得シテ維
持資金ノ造成ヲ圖リ本會ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル
外校舍増築ニ運動場ノ擴張ニ盡瘁至ラサルナク終
始一貫能ク其ノ任ヲ盡シ今ヤ本校ハ内外ノ施設ヲ

整備シ其ノ成績亦良好ニ向ヒ地方ニ於ケル子女教養ノ好機關タル地位ヲ占ムルニ至レリ

昭和三年二月十一日

萩町長 林 勇 輔誌
表彰 狀

萩町大字山田字奥玉江 來 島 三 槌

知恩報德ノ志厚ク地方ノ公益幫助ノ爲盡瘁スル所尠カラス仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和三年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔
事蹟概要

萩町大字山田字奥玉江 來 島 三 槌

質朴ヲ旨トシ敬神ノ念厚ク慈善宗教ノ爲喜捨ヲ客マテ勤勉ヲ以テ家憲ト爲シ過去四十年間ニ於テ田地壹町六段歩及山林拾壹町歩餘ヲ購入シテ一家平和ノ裡ニ感謝ノ生活ヲ營メリ時ニ穀菽菜蔬ニ良種ヲ得レハ必スヤ他ノ栽培者ニ之ヲ頒ツヲ樂ミト爲

シ或ハ共同造林ノ植付下刈等ニ際シテハ作業者一同ヲ自宅ニ招致シ自作ノ米菜ヲ提供シテ其ノ勞ヲ慰ムルヲ常トセリ又夙ニ早起ヲ勵行シ冬季ニ在リテハ午前四時ニ起床直ニ山ニ登リテ薪ヲ伐リ曉ニ至リ歸宅スルヲ例トス其ノ他本人ノ性格トシテ道路及橋梁ノ破損シタルトキハ之ヲ看過スルコト能ハス而モ日中ニ於ケル修繕ノ作業ハ交通上ニ障礙アルコトヲ慮リ未明ノ間密カニ修覆ヲ施スコト稀ナラス曾テハ暑中休暇中小學校運動場ニ雜草ノ繁茂スルヲ見テ連日星ヲ戴キテ之ヲ除却スル等不斷ニ於ケル陰德ノ行爲ハ克ク鄉黨ノ庶衆ヲ感化シ其ノ效績認ムヘキモノアリ尙ホ近クハ農耕ノ餘暇自ラ樹苗ヲ養成シテ木竹林ノ經營上適切ナル計劃ヲ樹テ範ヲ衆ニ垂ル、カ如キ地方産業ノ發達ニ貢獻スル所尠カラス

昭和三年二月十一日

萩町長 林 勇 輔誌

學 事

◎萩町立各學校に於ける昭和三年學業終了者及新入學者の狀況左の如し

萩商業學校
卒業生徒數 四八人
入學生徒數 九六人
明倫尋常高等小學校
卒業兒童數 四八九人
內尋常科第六學年兒童 三六〇人
高等科第二學年兒童 一二九人
入學兒童數 三三二人
內男 一八〇人 女 一五二人
椿東尋常高等小學校
卒業兒童數 二三八人
內尋常科第六學年兒童 一六〇人
高等科第二學年兒童 七八人
入學兒童數 一九七人
內男 八五人 女 一一二人

越ヶ濱尋常高等小學校
卒業兒童數 一二三人
內尋常科第六學年兒童 八八人
高等科第二學年兒童 二五人
入學兒童數 七六人
內男 三六人 女 四〇人
椿西尋常高等小學校
卒業兒童數 九九人
內尋常科第六學年兒童 五六人
高等科第二學年兒童 四三人
入學兒童數 七六人
內男 二九人 女 四七人
白水尋常高等小學校
卒業兒童數 一四七人
內尋常科第六學年兒童 九七人
高等科第二學年兒童 五〇人
入學兒童數 一一二人
內男 六二人 女 五〇人
木間尋常高等小學校
卒業兒童數 三一人

内尋常科第六學年兒童 一七人
高等科第二學年兒童 一四人
入學兒童數 一三人
内男 七人 女 六人

萩商業學校教員ノ異動

萩商業學校教諭に任ず 安藤 千歳
昭和三年三月三十一日 山口 縣 石田 徹
萩商業學校教諭心得に任ず 山口 縣 山口 縣
昭和三年三月三十一日 山口 縣

萩町立小學校教員の異動

明倫尋常高等小學校 職氏名
發令年月日 事由
昭和三年三月二十四日 退職 訓導 小川 正壽
同 阿武郡福田尋常高等小學校へ轉任 野村 忠次

同 吉敷郡大殿尋常高等小學校へ轉任 藤永 俊助
同 阿武郡小川尋常高等小學校へ轉任 大橋 一夫
同 阿武郡椿東尋常高等小學校へ轉任 田淵 ヨシ
同 阿武郡三見尋常高等小學校へ轉任 陶山ミサコ
同 阿武郡三見尋常高等小學校へ轉任 小田 照子
同 阿武郡德佐尋常高等小學校へ轉任 准訓導心得 原 阜
同 阿武郡彌富尋常高等小學校へ轉任 訓導 佐伯 范
三月三十一日 新任短期現役 訓導 小野 英良
同 二十四日 新任短期現役 同 末光 義雄
同 新任 同 金子 萩野
同 新任 同 井町アツ子
同 吉敷郡今道尋常高等小學校より轉任 伊東猪之助
同 阿武郡吉部尋常高等小學校より轉任 木原 キヨ

同 大津郡明倫尋常高等小學校より轉任 同 内藤ヨシ子
同 阿武郡三見尋常高等小學校より轉任 准訓導 粟屋 武雄
椿東尋常高等小學校 校長 河村 要一
昭和三年三月十六日奏任官を以て待遇せらる内閣
同 三月廿四日美禰郡綾城尋常高等小學校へ轉任 訓導 桂 トヨ子
同 佐波郡松崎尋常高等小學校へ轉任 同 安田 モミヨ
同 宇部市岬尋常高等小學校へ轉任 同 前田 マサ
同 施行規則第二百二十二條第三號に依り休職 訓導 小方 忠勝
同 依願免職 同 白井 チカ
同 依願免職 同 中村 シヅ
同 依願退職 同 石部 幸男
同 依願解職 同 末島 敏夫
同 佐波郡松崎尋常高等小學校より轉任 訓導 桂 文子
同 新任 訓導 吉村 澄夫

同 阿武郡明倫尋常高等小學校より轉任 同 田淵 ヨシ
同 三十一日新任短期現役 同 伊藤 英一
同 二十四日新任 同 景由 瀧槌
同 新任 同 神田ウメコ
同 新任 同 岡 里子
同 新任 同 大田 和子
同 阿武郡福田尋常高等小學校より轉任 准訓導 多田 照子
同 阿武郡川上尋常高等小學校より轉任 准訓導心得 山田 徳一
同 越ヶ濱尋常高等小學校 訓導 鈴川ヒナ子
同 退職 同 内田 勉
同 阿郡郡明木尋常高等小學校へ轉任 同 田中フミエ
同 阿武郡育英尋常高等小學校より轉任 同 永富 正志
同 同 同 白井 宣之
同 三月三十一日新任短期現役 同 白水尋常高等小學校
同 三月二十四日復職 同 高津 壹熊

木間尋常高等小學校
同 退職 准訓導心得 山根 文作
同 新任 訓導 高見ヒデ子

萩町聯合處女幹部修
養會修了者

昭和三年三月五日より三日間萩町海潮寺に於て開
催

講師 山口縣社會教育主事補 石川貞右衛門
修了者明倫處女會
羽仁素子、長野梅子、中津まつね、山根キク、宇
野ヒデ
同 椿東處女會
百濟萩江、福島ヤスコ、松田フミコ、土井千鶴子
岩崎テツヨ、寺田アサコ
同 越ヶ濱處女會
井町シズコ、兒玉シヅコ、松永ナツ、楳本ミサヲ
井町シヅヲ
同 椿處女會

吉村ミサヲ、河村タキエ、柳田良子、渡邊美智恵、
齋藤ヨシ
同 山田處女會
西山トシ子、原川トヨ子、岸ヒサ子、森本ツウ、
明賀ミサヲ
同 木間處女會
弘中キクヨ、時山キミエ、前田冬子、山村花子、
木村シズコ
計三十一名

萩町聯合青年幹部修
養會修了者

昭和三年三月八日より三日間萩町海潮寺に於て開
催
講師 山口縣社會教育主事補 石川貞右衛門
修了者 明倫青年團
福永芳太、藤井松雄、山村治良、中原竹一、滿田
巖、桑原豐樹
同 椿東青年團

松原貞雄、吉賀榮輔、田中章夫、寺尾信治、本藤
隆實、小野村保治
同 越ヶ濱青年團
岡米治、藤田勝治、末武太門、中村馬左雄、新見
治信

同 椿青年團
國守忠義、森永政忠、石丸清一、阿部良一、小野
正輔
同 山田青年團
峠三助、村田一夫、野原正一、來島信夫、小河内
英夫
同 木間青年團
西村市若、堀直枝、來島實則、小峠文雄、山根新
一

計三十二名

昭和三年度萩町聯合
青年團豫算概要

収入の部

基金利子 一八六円
萩町補助金 八〇〇
前年度繰越金 一〇四
計 金 一、〇九〇

支出の部

各團補助金 四〇〇
聯合遠足會費 四〇〇
聯合青年團總會費 一〇〇
聯合體育會費 一〇〇
修養會諸費 一〇〇
阿武郡聯合青年團體育會選手派遣費 二〇〇
獎勵費 一〇〇
武道獎勵費 三〇〇
視察派遣費 五〇〇
諸會派遣費 五〇〇
豫備費 四〇〇
基金繰入金 一〇〇
計 金 一、〇九〇

各地の博覽會

大禮記念國產振興東京博覽會 於東京上野公園
自三月廿四日至五月廿二日
大日本勸業博覽會 於岡山市
自三月十日至五月十八日
全國產業博覽會 於高松市
自三月二十日至五月十日
中外産業博覽會 於別府市
自四月一日至五月二十日

昭和三年度萩町聯合 處女會豫算概要

収入の部	
萩町補助金	二四〇 ^四
計 金	二四〇
支出の部	
各會補助金	九〇 ^四
聯合處女總會費	四〇
修養會費	八〇
獎勵費	一〇
諸會派遣費	二〇
計 金	二四〇

産業

萩町立工業傳習所

今回左記の箇所には萩町立工業傳習所及全分場を設
置し右分場に於ては新たに挽物料の傳習をも施す

ことゝせり

萩町立工業傳習所

萩町立大字江向第三百八十七番地

萩町立工業傳習所新川分場

萩町大字椿東第三千七百七十六番地ノ十五

萩町營玉江の魚市場開始

萩町は玉江浦漁業組合共同販賣魚市場を繼承し町
立萩魚市場の玉江出張所として四月一日より業務
を開始せり

特種惡性害蟲驅除

特種惡性害蟲の内矢根長介殼虫及ルビー蠟虫が萩
町今古萩の温州蜜柑に發生したので縣農事試驗場
岡田技師指導の下に左記の通驅除を行ひたり
驅除施行期間三月廿四日より三月三十一日まで

驅除方法

- 1、青酸瓦斯燻蒸 被害甚しきもののみに就き
行ふ
- 2、藥劑撒布

以上約二十六種である

右二十六種の現在産額は百參拾八萬貳千壹參拾八
圓にして一戸當約貳百五圓六拾錢であるが將來は
之を四百七拾萬四千四百四拾七圓に上らしめ一戸
當約六百九拾九圓五拾錢にまで達せしめんとす

萩町に於て開設すべき産業に關する講習會の種目

夏蜜柑改良講演會 杉磨丸太製造講習會

竹箒製造講習會 割箸製造講習會

木炭製造講習會 竹工土產品製造講習會

養蠶講習會 籐表製造講習會

吹、莖製造講習會 船舶職員養成講習會

蒲鉾製造講習會 水産加工製造講習會

副業獎勵に關し宮崎本

縣農林主事講演の要旨

(昭和二年十二月十四日
日萩公會堂に於て)

副業經營上注意すべき要件

一、副業の性質よりして其の事業の撰擇を誤らざ
ること

萩町の副業獎勵の計畫

萩町に於て選定したる獎勵副業の種目左の如し

一、農産關係 果實、不時蔬菜、重要蔬菜、其の

他の蔬菜、苗木、農産種子、農産

加工及製造、藁製作品

二、林産關係 木炭、杉磨丸太、竹製品、木製品

雜產物

三、水産關係 水産製造品、水産養殖、漁撈用品

四、畜産關係 肥牛、生産、育成、養鶏、養蜂

五、蠶糸關係 養蠶、真綿

六、雜工關係 編物、籐表、經木

二、副業生産品の統一を圖り商品化に努め販路の確實を期すること

三、生産と販賣に付其の組織を合理化し經營を有利ならしむること

更に之を具體的に言ひ表すならば

一、事業選抜の目標

イ、主業に注ぐ勞力及資本の關係を考慮し餘力の按配上適當のものなること

ロ、比較的作業容易にして能く老幼婦女子の從業にも適すること

ハ、資本を多く要せず代金の回収速かにして販路廣きこと

ニ、生産販賣上の經費に對し採算有利のものたること

二、經營上の要點

副業品は商品として概ね左の缺陷を有す從て事業不振の原因を爲す

イ、戸々の生産數量少く生産時期が斷續的なることにより纏りたる生産量を得難きこと

ロ、形質整一を缺き商品として價值乏しきこと

▲杉割箸製造講習會

椿東記念館に於て三月二十八日より五日間開催せり講師は平井山口縣商工技手之に當り講習終了生二十三名は目下盛に製造に従業中なり又一面には販賣機關として松本箸工業組合を組織し大々的賣出しを爲す計劃なり

副業に關する講演

昨年十二月萩町内各所に於て開催したる山下信義氏の副業奨励に關する講演筆記は此の程刷成したるに依り各區長役場學校圖書館各公務員其の他團體の幹部へ之を配付せり御一讀を希望す

昭和三年度萩町農會施設事業

一、技術員設置

農業の指導奨励會員の福利増進及農業に關する研究調査に當らしむる爲専任技術員參名を設置す

二、販路擴張

ハ、生産者自ら輕視するの嫌ありて仲買人などに拾値同様に買取られ算盤玉に合ふこと

右の次第なるを以て先づ以上述べたる缺陷を補ふ手段として

イ、事業を共同組織の方法に依り生産販賣に付合理的經營をなすこと（例ば共同購入、共同販賣）

ロ、生産品の商品化に力め意匠体裁等常に研究を怠らず又市場の狀況等に留意し取引問屋商店と密接なる聯絡を保つこと

ハ、生産技術の向上と生産費の低減を圖り優良なる生産品を比較的安價に提供することに努むること

各區の副業講習狀況

▲竹箒並竹細工製造講習會

大字山田菅原社及椿區大谷公會堂に於て各一週間開催せり講習生四十名にして講習中製造したる竹箒は相當の値段を以て新川の阿波商事會社之を引取り成績大いに見るべきものあり

各種主要生産品並に副業生産品の販路を擴張する爲主要地に對し見本品を發送す

三、採種圃設置

米麥及紫雲英の採種圃を設け優良原種の採種を爲し一般希望者に配付普及せしむ

四、模範田

米麥作の模範田を設け經濟的施肥方法其の他研究を爲し併せて之れが模範を示す

五、講習講話

先進地に於ける稻作の泰斗たるべき講師を招聘し適當の時機を見計らい講習會を開催す

主婦並に婦女子の勤勞觀を涵養し生活改善に資する目的を以て區域内適當の地に於て婦人に關する講習會を開催す

其の他各區の希望に依り臨時講話會を開催す

六、苗木養成

樹苗養成の助長を圖る爲本縣樹苗養成奨励費交付規則に依り山林樹苗圃を設置す

萩町現在の老衰夏橙園の更新改善を圖る爲夏橙苗木の養成を爲し昭和五年度より五年生苗木五

千本を實費を以て萩町へ納付の契約を爲す

七、品評會

萩町に於ける紫雲英種子の販路を擴張し併せて其の生産額を増加するの必要を認め緑肥の立毛品評會を開催す

八、仲介

前年同様農産物の販賣斡旋並に農業用品共同購入の仲介斡旋を爲す

九、青物市場

前年同様青物市場を經營し内容の改善取扱方法の刷新と相俟つて生産者消費者を通し福利の増進に寄與す

一〇、促成栽培

適當の溫床を設備し之れに新品種の蔬菜栽培を試みる者に對し一框壹圓以内の種苗又は種苗費を交付し若は篤農家を選定して先進の視察研究を行はしむ

一一、養蠶組合

養蠶組合の事業を助成する爲養蠶教師參名を備入れ實地の指導を爲さしむ

一二、栽桑獎勵

前年同様栽桑獎勵費を交付す

一三、農事組合設立獎勵

初年度の設立經費を補助し以て順調なる發達を遂げしむ

一四、養鶏組合

客年十二月養鶏組合設立を慫慂し漸次活動の域に進みたるを以て之を助長して完全なる發達を遂げしむ

一五、種牡牛購入補助

優良犢の生産増加を圖る目的を以て本年度に於ては種牡牛購入者に對し補助金を交付す

罐詰製造工場の新設

越ヶ濱の田村罐詰製造工場は田村氏死亡後仲子四郎氏其の業務を繼承經營中のところ同氏は今回香川津東萩驛前に新に約百坪の罐詰製造工場を建設し三月廿日頃より業務を開始し元の田村工場は下關市林兼商店主仲部幾太郎氏に於て敷地建物の全部を譲受け三月廿三日頃より業務を開始すること

となりました何れの工場も鰯、鯖、鰒、鮓等の魚介類の味付水煮、油漬等を製造する計劃であつて一ヶ年の生産高を數萬函に達せしむる意氣込である

水源涵養造林の獎勵

三月十六日縣令第十七號を以て水源涵養に關係ある私有及社寺有の土地に造林を爲す者に對しては一定の條件を附し施業經費の三分の一以内の獎勵金を交付する旨令達あり詳細は萩町勸業課に就き承知せらるべし

最近の萩町生産統計

漁獲物	二、二八七、〇三五圓
水産物	五四六、三七〇圓
米	四二九、四九四圓
麥	四一、九八四圓
生糸	二〇九、五三六圓
夏蜜柑	二〇二、〇〇〇圓
蔬菜	一四四、三七九圓
木材	六四、八〇〇圓

木蠶竹其合

炭	三八、三六〇圓
繭	三四、〇八七圓
竹材	一五、〇〇〇圓
其他	五五二、三八九圓
計	四、五六五、四三四圓

萩町の耕地面積

六六八六段歩
六一八二段歩
一二八六八段歩

萩町の林野面積

町有林	一一四六町歩
民有林	二〇五五町七段歩

農事統計

田地耕作の状況

一 毛 作 田 地	二 毛 作 田 地	計
桑樹果樹其他樹木 ヲ植付ケタルモノ	裏普 作通 裏綠 肥ノ 作ノ	計
一八一反	二二七〇反	九三一反
三二四七反	三二八三反	六七一一反

田畑自作小作の状況

自作	小作	計
田	田	計
三、七八五反	二、九二六反	一、九六六反
四、二二四反	一、九六六反	一二、八九一反

自作小作自作兼小作農家戸數

自作農家	小作農家	自作兼小作農家	計
九六四戸	五三〇戸	一、二九九戸	二、七九三戸

所有田畑廣狹による區別

五反歩未満	五反歩以上一町歩以上	一町歩以上二町歩以上	二町歩以上三町歩以上	三町歩以上五町歩以上	五町歩以上	計
一、七三六戸	四四七戸	一五六戸	三六戸	六戸	三戸	二、三八五戸
五反歩未満	五反歩以上	一町歩以上	二町歩以上	三町歩以上	五町歩以上	計
一、八五七戸	六七七戸	二二五戸	四〇戸	四戸	一戸	二、七九三戸

耕作による田畑廣狹區別

町立萩魚市場賣買取扱高

月 別	萩 魚 市 場	越ヶ濱出張所	小 計	摘 要
一 月	六六、七四九四四	一一、一〇五二四	七七、八五四六八	
二 月	七五、〇八五、五六	二〇、九九二、九七	九六、〇七八、五三	
三 月	七〇、七七四、〇四	一六、五四八、三〇	八七、三二二、三四	
計	二二二、六〇九、〇四	四八、六四六、五一	二六一、二五五、五五	

輸出入貨物調査

萩税關支所調査

二 月 中	三 月 中
杉丸太 七十噸 壹千六百八拾圓 門司經由大連行	杉丸太 百六十噸 貳千七百四拾五圓 大連行
	青 竹 六十噸 九百四拾七圓 大連行
	合 計 貳百貳拾噸 參千六百九拾貳圓

萩町内各信用組合の貯金現在高

昭和三三年二月末日調	南 瓜
萩積善信用組合 金五十萬七十三圓七十錢七厘	萩南瓜、縮緬、菊座種有望、三月中旬溫床に苗を育成し四月下旬之を畦幅六尺株

西瓜 間四尺に定植す反當播種量三合を要す
大和西瓜、嘉寶西瓜等有望直播は四月上旬畦幅六尺株間四尺に定めたる箇所に一ヶ所三、四粒を点播す反當播種量三合を要す

越瓜 東京大越瓜、桂瓜等有望四月下旬畦幅四尺株間三尺に点播す反當播種量三合を要す

茄子 早生蔓細千成、中生山茄子、廣島長茄子等有望二月中旬溫床に播種育苗の後四月下旬之を畦幅三尺株間一尺五寸に定植す反當播種量一合を要す

トマト ボンテローザ、アコム種等有望三月上旬苗床に播種育成後四月下旬之を畦幅三尺株間二尺に定植す反當播種量一合を要す

里芋 赤芽芋、土垂、八ッ頭等有望四月上旬畦幅二尺五寸株間一尺五寸に定植す反當播種量三十貫を要す

甘藷 源氏、アメリカ種等有望二月下旬溫床に諸を伏せ込み五月中旬一尺内外に伸長せ

馬鈴薯 る蔓を切離し畦幅二尺株間一尺二寸に舟底形に挿植す反當種諸二十貫を要す
アーリーローズ、長崎赤等有望三月上旬畦幅二尺株間一尺二寸に定植す反當種薯二十五貫を要す

薑 金時種有望四月上旬畦幅二尺株間一尺二寸に定植す反當種薑七十貫を要す

午 蒡 萩午蒡、砂川、瀧ノ川種有望四月上旬畦幅二尺に條播し株間六寸に間引く反當播種量一升を要す

菜豆 アーリーコボレー、鈴成菜豆等有望四月上旬畦幅二尺五寸株間一尺五寸トシ一箇所三、四粒宛点播す反當播種量四升を要す

財政及經濟

昭和三年度秋町歳入出豫算は過る三月町會の議決を了したり、其の概要左の如し

歳入

町、國、縣、費補助税	計
常部	二四三、四八八
臨時部	二二、五〇三
計	二六五、九八一
其の他の收入	計
常部	四五、二七八
臨時部	六七、九八七
計	一二〇、六五〇
其の他の收入	計
常部	四二、六六三
臨時部	九〇、四九〇
計	一三二、一五三

役場	計
常部	五四、六三七
臨時部	五一、二四三
計	一〇五、八八〇
土木	計
常部	一三、九五七
臨時部	八四、五
計	九八、四四五
衛生	計
常部	一五、五九八
臨時部	四一、四八三
計	五七、〇八一
教育	計
常部	一五、八二七
臨時部	八、五六九
計	二四、三九六
勸業	計
常部	七、五六〇
臨時部	四九、三七二
計	五六、九三二
其の他の諸費	計
常部	一八、九八八
臨時部	一五二、三五二
計	一七〇、三四〇

因みに昭和三年度秋町豫算中新たに事業を計劃せるもの

歳出經常部

區長役場經費新設の爲	計
常部	五二二
臨時部	四二〇
計	九四二
學校看護婦壹名設置の爲	計
常部	四二〇
臨時部	一、〇七
計	四二一
商業學校學級増加に伴ひ	計
常部	二、六四〇
臨時部	三、〇二〇
計	五、六六〇
教諭貳名増員の爲	計
常部	二、六四〇
臨時部	三、〇二〇
計	五、六六〇

汚物掃除夫壹名増員の爲	計
常部	六三六
臨時部	六三二
計	一二六八
副業講習會開設の爲	計
常部	一、〇七
臨時部	三、〇二〇
計	四、〇九〇
水産製造講習會開設の爲	計
常部	一、〇七
臨時部	三、〇二〇
計	四、〇九〇
工業傳習所事業擴張の爲	計
常部	一、〇七
臨時部	三、〇二〇
計	四、〇九〇
警備費増加の爲	計
常部	一、〇七
臨時部	三、〇二〇
計	四、〇九〇

納税奨励費増加の爲
萩町月報発行の爲
計

歳出臨時部

町役場附屬建物建築修理の爲
濱崎町地内道路改修の爲
玉江浦地内道路改修の爲
小原地内道路改修の爲
新川道路改修の爲
堀内火葬場通路改修の爲
境町今魚店町線新橋架換の爲
其の他の橋梁架換の爲
新川河底岩盤掘鑿の爲
北前小畑地先海岸埋立の爲
各學校及圖書館設備改善の爲
水泳場設備の爲
堀内病院電動機修理の爲
船員養成講習會開設の爲
夏蜜柑立木品評會開設の爲
各種生産品販路擴張の爲

一七〇
三九六
一〇、〇五四
八〇〇
三〇〇
七七六
八〇〇
八〇〇
六六〇
一、二〇〇
二、八六九
二四、〇〇〇
八三八
一七、一二一
四五〇
三六〇
三五〇
一五〇
三五〇

先進地方産業視察の爲
消防機械置場修理の爲
史蹟名勝天然記念物展覽會出品の爲
御大禮奉祝式典舉行の爲
御大禮記念事業施設の爲
川島道路改修費補助の爲
防長武學生養成所基金助成の爲
衛生組合事業補助の爲
商工會補助増加の爲
水産業補助の爲
林業補助の爲
在郷軍人分會臨時事業補助の爲
佛教團兒童デー實施補助の爲
副業組合設立補助の爲
博覽會共進會出品補助の爲
税關開廳式協賛の爲

合計

五〇〇
二四〇
二七〇
四五五
一、二五〇
八〇〇
一、三九二
四八五
四〇〇
三〇〇
三〇〇
三〇〇
三〇〇
一〇〇
二〇〇
三九〇
三〇〇
六〇、一七三
七〇、二二七

萩町税賦課率

昭和三年度の町税賦課率は左の通でありまして總て前年度と同一率であります

一、地租附加税

宅地租金壹圓に付金參拾壹錢參厘六毛、其他地租金壹圓に付金七拾參錢九厘貳毛

二、特別地稅附加税

地價の百分の參七に對する百分の八九、六

三、營業收益稅附加税

國稅金壹圓に付金六拾七錢貳厘

四、礦業稅附加税

試掘稅金壹圓に付金參錢

探掘稅金壹圓に付金七錢

五、家屋稅附加税

縣稅金壹圓に付金五拾六錢

六、縣稅營業稅附加税

縣稅金壹圓に付金九拾錢

七、縣稅雜種稅附加税

不動産取得稅金壹圓に付金壹圓五拾錢

遊興觀覽稅金壹圓に付金五拾錢

其の他稅金壹圓に付金壹圓

八、戶數割

戶數六千七百貳拾五戶一戶當金貳拾參圓參拾錢 以上

特別稅戶數割條例改正

特別稅戶數割條例中所得額より控除すべき金額に付萩町會の議決を経左の通改正しました(括弧内は從來の額)

一、所得千圓以下なるとき

年齢十四才未滿若は六拾才以上の者又は不具

廢疾者 一人に付五拾圓(六拾圓)

二、所得二千圓以下なるとき

一人に付參拾五圓(四拾五圓)

三、所得參千圓以下なるとき

一人に付貳拾五圓(參拾圓)

軍事

◎萩町招魂祭

本年よりは四月三十日を以て萩町招魂祭の定日とし例年の通堀内忠魂碑前庭に於て祭典を舉行す祭式は神佛式を交互に行ふこととしたるを以て本年は佛式に依り營む筈なり

◎萩町招魂祭合祀者

萩町招魂祭合祀者參百參拾六桂に對しては其の氏名並勳蹟を永久に傳ふる爲め今回之を銅板に刻記することとせり、來る招魂祭當日此の竣成祭式をも併せ行ふ豫定なり

◎昭和三年萩町徴兵検査日割

五月二十七日	萩
五月二十八日	萩及入寄留者
五月二十九日	上記四日間の 受檢總人員四 百九十七名
五月三十日	椿及山田

◎昭和三年度に於ける陸軍勤務演習の相當年次左の如し

きたる者

八、各兵科兵卒(輜重輸卒を除く)は豫備に在りては大正十三年中後備に在りては大正七年中徴兵検査を受けたる者

九、看護卒及磨工卒は豫備に在りては大正十三年中後備に在りては大正七年中徴兵検査を受けたる者

一〇、補助看護卒は豫備に限られ大正十一年中徴兵検査を受けたる者

一一、補充兵役各科兵卒は大正十三年中徴兵検査を受けたる者

◎昭和三年度陸軍簡閱點呼日割

本年度陸軍簡閱點呼は來る八月十日より八月十三日迄四日間萩町に於て執行せらる

◎防長靖獻會招魂祭

四月二十四日五日の兩日山口町櫻島練兵に於て防長靖獻會主催に依り左の通招魂祭舉行せらる祭典は晴雨に拘らず四月二十四日午前十時より神式四月二十五日佛式にて舉せらる

一、各兵科上長官士官は豫備に在りては大正十三年中後備に在りては大正十五年中其の役に就きたる者

二、幹部候補生出身士官は豫備に限られ大正八年中大正十二年中及大正十五年中其の役に就きたる者

三、各部士官は豫備に在りては大正十三年中後備に在りては大正十五年中其の役に就きたる者

四、各兵科特務曹長は豫備に在りては大正十三年中後備に在りては大正十五年中其の役に就きたる者

五、各兵科下士は豫備に在りては大正十四年中後備に在りては大正十五年中其の役に就きたる者

六、幹部候補生出身下士は豫備に在りては大正十二年中及大正十五年中後備に在りては大正十五年中其の役に就きたる者

七、各部准士官下士は豫備に在りては大正十三年中後備に在りては大正十五年中其の役に就きたる者

土木

府縣道田万崎萩線の測量

府縣道田万崎萩線中萩町香川津より越ヶ濱に至る間は近時車馬の來往著しく頻繁となり交通整理上此の區間道路擴張の急を要するを認め曩に本縣知事に對し請願中のところ本縣に於ては之か改修の前提として過る二月十六日より三月三日迄十六日間に亘り本縣技手を派遣し平面縱斷横斷の測量を終りたり而して同區間路線の延長二千八十五間五分にして幅員實用幅六間最急勾配六十分ノ一曲線最小半徑三十間の理想的路線を得たるを以て目下本縣土木課に於て工事設計中に屬せり

港灣調査

萩港灣修築の基本調査として本縣より専門技術員の派遣を受け客年九月十二日より十月二十九日に至る四十八日間に亘り左記の通り測量を終り港

灣修築計劃上絶好の資料を得たり

- 一、調査區域は松本川川口上流二百間の位置より起り新川、鶴江台沖、戎鼻港、中の台沖、狐島沖瀉港、越ヶ濱、夕和港の各港内とす
- 一、平面測量は前記調査區域内を陸上海面共に詳細なる調査を遂げ二千四百分の一の平面圖を作製し海水の深度をも圖上に詳記すること、せり
- 一、深淺測量は長二十間々隔に深度を測定し水深の測量は測定毎に檢潮を爲し最大平均干潮面より起算すること、せり、就中戎鼻港及瀉港は海岸より二十間沖合に於て十二尺乃至六十尺の水深を有す

詳細は萩町備付の平面圖に依り承知せられたし

越ヶ濱上水道工事

本工事は曩に監督官廳の認可を経て昭和二年十二月一日工を起し昭和三年十一月末日を以て竣功の豫定なり施設の概要左の如し

一、水源池は萩町椿東字滑石及彌太郎浴の兩溪谷

とせり

- 一、水量の概算は最大量五、九八七立方尺湯水時三、五〇〇立方尺の見込なり
- 一、給水區域は越ヶ濱一圓とし最近現在人口二千五百五十一人に對して三千五百人を予想し給水量一人一日平均二立方尺とせり
- 一、工事の方法は主水源取水池一箇所及淨水場四箇所を設け配水管は内徑三吋乃至三吋半鑄鐵管を使用すること、せり

萩町内町村道一覽

昭和三年三月三十一日現在

路線數	一等道路延長		二等道路延長		計
	間	間	間	間	
萩	七二	二五、三六五	七、〇四六	三二、四一一	間
椿東	一二	七、三九二	一、六六〇	九、〇五二	間
山田	一五	一〇、二一〇	三、四一九	一三、六二九	間
計	一〇三	五一、六八五	一二、六二〇	六四、三〇五	間

本表ノ外道路路法ニ依リ路線ヲ認定セサルモノ延長約三千五百間アリ

衛生

◎一月三十一日濱崎新町に赤痢疑似患者發生せるに依り患家附近の者に對し數回に涉り豫防注射を施せり

◎本年度種痘は三月二十五日より四月七日迄の間當町各小學校に於て施行せり

昭和三年一月以降傳染病患者數

	三月中發生		二月迄の發病者		計
	腸室扶斯	赤痢	赤痢疑似	實扶的利亞	
計	一	四	一	一	一
猩紅熱	一	一	一	一	一

人事

戸籍と身分關係

戸籍のことは明治四年四月太政官布告を以て其の取扱方を定められたるを始めとし明治三十一年六月法律を以て新たに戸籍法の發布あり同三十一年七月民法實施と同時に之を施行することとなり後又大正三年三月更に法律を以て戸籍法の改正あり同四年一月より施行せられ以て今日に至れるものなり顧ふに本法は凡そ人の出生死亡縁組婚姻及相續の如き身分關係の事柄の外戸主家族の別をも瞭かならしむる等國家構成の基本たる家族制度の組織を明確ならしむる重要なものである而して民法中の新族及相續の規定に従ひ吾人の權利義務を届出に依りて之を登記するものが戸籍簿である即ち戸籍簿なるものは御互に民法上の權義を確實ならしむるものであるから何れの家庭に於ても此の戸籍の無いものはない

以上の譯合であるから皆さまでしても常に戸籍の
謄本一本を備へ置かれ何かの便宜に供せられ度又
戸籍に關する届出を爲す場合でも右謄本を御携帶
になれば町戸籍課に有る一定の書式に依り他人の
手を煩はさずして届出も出來得る譯である仍て此
事柄をも附け加へ御勸め致して置きます
以下出生に付ての概要を記述し參考に資すること
とす

- 一、子が出生したときは其の日より十四日以内に
届出を要するのである
- 二、届出は本人の本籍地又は届出人の所在地に於
て爲すを本則とするも出生地に於て爲すことを
得るのである
- 三、子は父の家に入るのが本則であるが父の知れ
ざる子は母の家に入り父母共に知れざる子は一
家を創立するのである
- 四、出生子には嫡出子庶子私生子の別ありて嫡出
子は子の父母が正婚中に出生したる者庶子は正
婚の間に生れざる内縁中の子を父が認知したる
者私生子は父の知れざる子である、而して庶子

は婚姻届の手續を爲せば嫡出子の身分を取得し
私生子は其の知れざりし父が認知を爲せば庶子
と爲り其の父母が更に婚姻を爲せば嫡出子たる
身分を得らるゝのである右等は相續權にも影響
するから充分に心得置くべき必要がある
五、嫡出子の届出は父より爲し父が爲すことを得
ざる場合は母より爲すことを要するのである
庶子の出生は父より爲し私生子の出生は母より
爲すことを要するのである
六、庶子私生子であつて父又は母が家族である場
合は子の入籍に付戸主の同意を要するのである
庶子が父の家に入ることを得ざるときは母の家
に入る私生子が母の家に入ることを得ざるとき
は一家を創立することが出来るのである

萩町人口動態

三月 中	婚姻	離婚	出生	死亡	死産
一六九	七二	三	一五二	一〇九	三
一月以降	一六九	一六	四二六	二九三	九

慈惠救済

藤田政輔氏の寄附

在東京藤田政輔氏は祖先法要執行に際し追善の爲
當町社會事業費として金壹千圓を寄附せらる
因に萩町は右寄附金を財源として堀内病院構内
の一部に窮民救護所、行旅病人收容所及精神病
者監置所を建築することゝせり

雑事

早老の豫防

老耄とは精神の老衰である。精神の老衰は身體の
老衰に連れるのが普通であるが、必ずしもそうで
なく身體はなほ強健であつても精神既に老衰を現
わす人も少くない。人間の價値がその身體よりも
精神の健否によつて定まる以上われ／＼は精神の

老衰をできるだけ遅く來らしめ、身體なほ健康で
あるのに精神衰頹してゐるとゆうような醜態を暴
露しないようにしたいものである。老耄の際に現
われる精神變化は種々あるが、そのうち主なるも
のは左の通りである。

健忘 われ／＼の記憶には(新しいことの記憶)
(記銘力)と舊事の記憶とあるが、健忘とは記銘力
の不良なのをゆう。昨日したことを忘れ、人名を
忘れ、物おき忘れ等の程度から甚しくなればいま
言つたこと、いま食べたことを忘れ。そして自分
の健忘に心つかないで、他人が物を隠したとか、
今日は食事をさせないとか言つて立腹することす
らある。かゝる健忘の場合でも追想力は佳良なも
のが多く若い時の経験などをよく記憶してゐるも
のがあるが、しかし老耄が高度になると舊いこと
も忘れてしまう

思考の範圍は老耄に従つて狭くなる。青年時の
如く興味が多方面にわたることが漸次なくなり、
殊に新しい事柄には何等の興味がなく偏狹となり
自分の古い経験智識の範圍外に出ることが出來ず

従つてその談することは舊套に捉われ、昔の自慢話ばかりであり、甚だしいのは肉親の休戚、自分の安危の外は毫も興味が起こらないようになり、社交はもちろん外出すら厭い閉居するようになる。

この思考範圍の狹縮と、老人特有の感情異情によつて、その性格は偏固一徹となり、自分の意見のみが正しいと思ひ、他の意見に耳を傾けず、逆ふものがあればこれを憎み、自分の惡意を抱くかの如く曲解する。

感情は理性の制肘を失ひ容易に爆發するようになる。氣短となり、僅かのことに赫怒したり、僅かのことに悲觀したり、或は食欲に盲従し、或は年にも恥しず猥褻行爲に出ることすらある。意志は薄弱となり、勇氣決斷なく、向上の念なく無爲に暮す。

この老耄が極度になると、さらに種々の變調が現われる。例へば被害妄想といつて、家族や他人が自分を害せんと企てゝいるように信じ家人が虐待する、食物に毒を入れる、財産を盗む毎夜敵が襲つて來る等言つて興奮する事があり、誇大妄想

と言つて自分が非常な財産家である數千の妻妾を有する等無稽の言を弄したり、或は時々興奮して錯亂状態となり、外出徘徊したりなどする。かくなれば既に單純な老耄の程度を超えて老耄性精神病である。

かくの如き老耄現象即ち精神の衰頹は、高齢においては何人にも必ず現われるのであるが、しかしその發現の時期は人によつて非常に異なるもので九十歳百歳にして初めて老耄する人もあれば五十代に既に老耄する人もある。かゝる個人的差別は如何にしておこるかを知らねば早期老耄を防ぐのに大切であるのはもちろんであつて、しかしそれには老耄者の腦に如何なる變化があるかまたこの變化は如何なる原因に基くかを知らねばならない。

八田鐵道次官一行來萩

八田鐵道次官矢田部鐵道省經理局長外三名は三月二十五日須佐驛鐵道開通式に臨場し其の翌日德佐大井間の鐵道豫定線を視察して萩町に一泊同月二

十七日大田町に出で大田於福間の同豫定線を視察し下關に到れり

尚ほ八田鐵道次官萩町著の當日歡迎會席上來賓並歡迎會員一同に對しては左の熱望と題するパンフレットを配付し其の眞情を披瀝する所あり

鐵道布設に關する熱望

一、萩小郡間鐵道の速成

萩小郡線は山陽山陰兩本線を連絡する僅々三十哩の最近最良の路線なり京阪神及瀬戸内海地方との關係極めて密接なるものあるのみならず沿線の物資及日本海の水産物等亦頗る豊富なり我地方の開発は此の間の鐵道開通に俟つの外なし仍て本鐵道の速成を熱望す

二、須佐東萩間及正明市瀧部間鐵道の速成

北海岸線鐵道は將に下關青森間を貫通せむとす然るに此の間萩線及長門線に限り未開通となるは眞に遺憾とする所なり速かに我長門部を開發する爲本鐵道の速成を熱望す

三、德佐大井間鐵道の速成

本線は岩國日原間及德佐廣瀨間の鐵道と相俟つて瀬戸内海とを連絡する極めて重要な路線なり之か速成は縣下阿武郡佐波郡濃郡及玖珂郡に於ける山間部森林地帶を開發するのみならず廣島市を中心とする瀬戸内海より萩町を経て更に大陸方面に連絡する最捷徑の線路なり仍て本鐵道の速成を熱望す

四、大田於福間鐵道の速成

本線は萩小郡線と美禰線とを連絡し沿線に天下の奇勝秋芳洞あり加ふるに到る所無盡藏の礦産物を有し國利増進上必要欲くへからざる線路なり仍て本鐵道の速成を熱望す

昭和三年三月二十六日

山口縣阿武大津美禰吉敷四郡各町村有志者

萩港の修築

萩港は各方面より見て西日本海に於ける最良の港津たり最近開港場の指定あり之が修築は鐵道の開通と相俟つて海陸の交通機關を完備し地方産業經濟の發達を助長すること多大なりとす之が修築の實現に關し援助あらむことを熱望す

昭和三年三月二十六日

山口縣阿武郡萩町有志者

公 告

萩町で奉仕してゐる事務の一斑を廣く皆さんにお傳へ致しそしてより良く萩町を理解して戴き町全般の福利増進に資せむか爲本月を初號として毎月一回此の月報を發行することゝしたのであります。今後は毎月區長役場の方から皆さんの自宅へ回覧に供せらるゝ筈ではあります。が、一ヶ年分金壹圓貳拾錢をお納めになれば別に毎月一部宛をお送りすることゝして居ります。から皆さんの爲にも又萩町の爲にも進むで御購讀下さる様切にお願ひ致します。尙ほ第二號よりは紙面の都合により萩町の爲になる名士の講演筆記をも引續き掲載することゝして居ります。から御精讀下さる様豫め申上げて置きます。

昭和三年四月十五日

萩町庶務課

昭和三年四月十五日印刷
昭和三年四月二十日發行

山口縣阿武郡萩町大字江向四百六番地
編輯兼發行者 林 勇 輔

山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地
印 刷 者 荒 瀬 德 治

山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地
印 刷 所 信 清 舍 印 刷 所

